

もんじゅ — 会計検査院の報告から

その1

結局いくらかけて、何ができたの？

2018年5月11日に会計検査院が国会・内閣へ行った報告から、もんじゅって何だったのか？考えたいと思います。

歴史

(参考資料①) p.10

1968年9月 予備設計開始

1985年10月 着工

1992年12月 性能試験開始

稼動205日

1995年12月 ナトリウム漏洩事故による性能試験中断

2010年5月 性能試験再開

稼動45日

2010年8月 炉内中継装置落下事故による性能試験中断

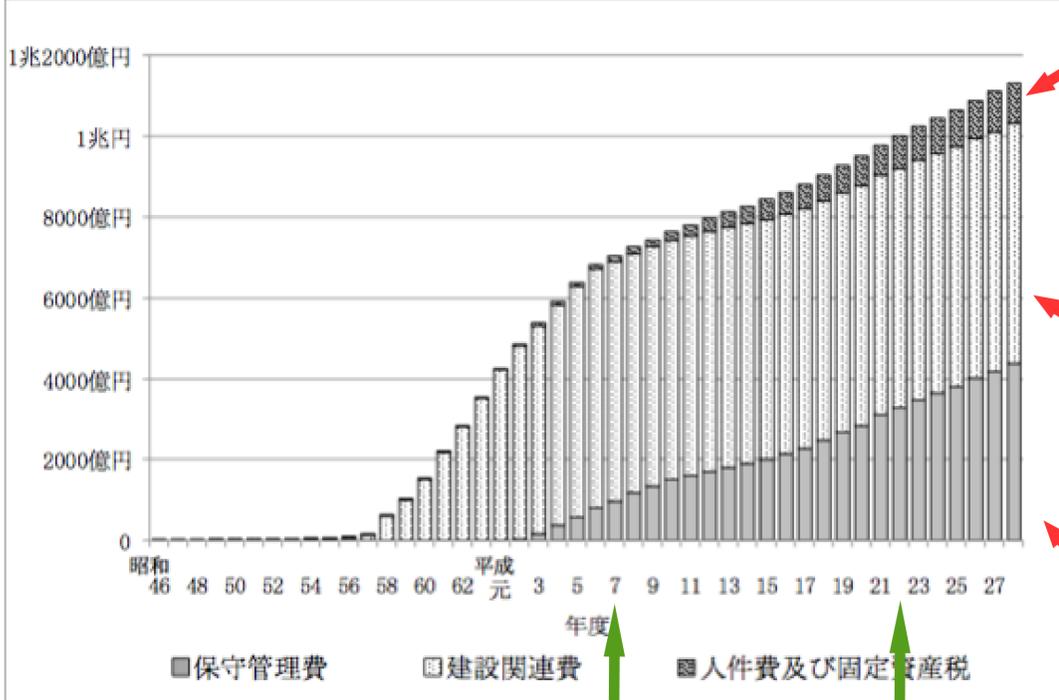
2016年12月 廃止措置への移行決定

いくらかかったの？ (経費の話)

(参考資料①) p.12

(参考資料①) p.13

図表1-1 廃止措置への移行決定までの研究開発に要した経費 (累計額)



注(1) 金額は、平成23年11月に会計検査院が表示した意見に基づき、機構が毎年度公表しているもんじゅの研究開発に要した経費の累計額を、年度ごとに示したものである。
注(2) 金額の詳細は、別表2参照

1971~2016年度累計

人件費

590億4285万余円

固定資産税

432億6617万余円

建設関連費

もんじゅ建設やその準備に要した経費

5907億9103万余円

保守管理費

4382億6432万余円

総支出額

1兆1313億6439万余円

ちなみに

ナトリウム漏洩事故は1995年、平成7年 (①)

この時点での累計額は約7000億円

炉内中継装置落下事故は2010年、平成22年 (②)

この時点での累計額は約1兆円

参考資料

①会計検査院HP

「高速増殖原型炉もんじゅの研究開発の状況及び今後の廃止措置について」
<http://www.jbaudit.go.jp/pr/kensa/result/30/h300511.html>

性能試験で実施を予定していた試験項目数と実施状況

- 「炉心特性試験」 炉心の特性を確認
- 「しゃへい特性試験」 原子炉容器周辺部等の放射線が適切に遮へいされていることを確認
- 「プラント特性試験」 原子炉起動中のプラントの特性を確認

1992年12月～1995年12月

(参考資料①) p.47

図表3-1 第1回性能試験における試験項目の実施状況

試験分類	実施を予定していた試験項目数	完了した試験項目数
プラント特性予備試験	21	21
炉心特性試験	28	17
しゃへい特性試験	10	3
プラント特性試験	系統運転特性	5
	計測制御特性	—
	異常模擬運転特性	2
	化学分析評価	—
	その他	2
計	142	50

(注) プラント特性試験のうち「系統運転特性」は、各設備やプラント全体の運転特性を、「計測制御特性」は各計測・制御装置の特性を、「異常模擬運転特性」は原子炉に異常が発生した場合のプラントの特性を、「化学分析評価」は放射性物質の挙動等を、それぞれ確認するものである。

2010年5月～2010年8月

(参考資料①) p.48

図表3-2 第2回性能試験における試験項目の実施状況

試験分類	実施を予定していた試験項目数	完了した試験項目数
炉心特性試験	20	—
しゃへい特性試験	7	—
プラント特性試験	系統運転特性	—
	計測制御特性	—
	異常模擬運転特性	—
	化学分析評価	—
	その他	—
計	117	—

完了試験項目数 **50/142**

完了試験項目数 **0/117**

文科省による技術成果達成度試算方法（2012年）

- ①実証炉の開発に有用な試験項目を抽出（53項目）これに運転段階移行後に予定している項目等37項目を追加（計90項目）
- ②各試験項目等から得られる技術成果に重要度に応じて点数設定
- ③試験等項目を3分類（詳細下記）
- ④点数を分類ごとに集計、総点数に占める達成度算出（3分類の達成度を平均して全体の達成度とする）

(参考資料①) p.53

図表3-7 もんじゅの性能試験開始後の各時点における技術成果の達成度

分類	平成7年12月のナトリウム漏えい事故時点	22年8月の炉内中継装置の落下事故時点	24年5月時点	28年12月の廃止措置への移行決定時点
機器・システム試験関連	15%	16%	16%	16%
炉心試験・照射関連	27%	31%	31%	31%
運転・保守関連	0%	0%	0%	0%
全体	14% (最大)	16%	16%	16%

注(1) 本図表の達成度は、図表3-6の時点ごとに得られた点数の合計が総点数に占める割合を小数点以下を四捨五入して算出したものである。

注(2) 平成25年9月に策定されたもんじゅ研究計画において、もんじゅの研究開発の目標は再整理されたが、性能試験の実施項目に変更はないため、28年12月時点の技術成果の達成度には影響しない。

技術成果達成度

16%

最後に一言

再生可能エネルギーに約半世紀の時間と、1兆円のお金をかけてたら何が実現できていたのか、と考えると泣けてきます。実際には約半世紀の時間と、1兆円以上のお金をかけて、成果達成度は16%。しかもこれで終わっているわけではなく、廃炉にさらに膨大なお金と時間がかかる。そして、だれも責任を取らないどころか、まだ核燃サイクルを諦めない。どうかしてるとしか思えません。